

イ 集計票の記入の仕方

集計票（a I票）の記入の実際は、表16の  
実践モデルを用いて説明したい。（事例N＝  
20人、財的領域の場合）

㉞ 「評価分布」欄の記入

評価票の評定を集計して記入する。事例は  
五段階評定である。評定尺度は、自校化のね  
らいによって異なるので留意したい。

Pの①では、5と評定した教職員が0人、  
4と評定した教職員が8人いることを示す。  
以下、3が9人、2が3人、1が0人である。

① 「評定」欄の記入

次のような方法で計算して記入する。

$$\frac{5 \times 0(\text{人}) + 4 \times 8(\text{人}) + 3 \times 9(\text{人}) + 2 \times 3(\text{人}) + 1 \times 0(\text{人})}{20(\text{人})} = 3.3$$

小数第二位以下は、四捨五入とする。

㉟ 「評価領域の平均点」の算出の仕方

各領域ごとの評定の平均値である。算出の

式は、評定の合計÷領域内の観点数とする。

$$\frac{3.3 + 3.0 + 3.6 + 3.4 + 3.5 + 3.4}{6} = 3.4$$

小数第二以下は、四捨五入とする。

評価領域「予算配分と執行」の平均値は、  
3.4となる。

㉚ 「財的領域における評定の平均」欄の記入  
財的領域内における二つの評価領域のP（  
計画）D（実施）S（評価）の評定の平均値  
を算出して記入する。

○ Pの段階の場合

$$\frac{3.3 + 3.0 + 3.3 + 2.9}{4} = 3.1$$

○ 領域の平均の場合

$$\frac{3.1 + 3.7 + 3.5}{3} = 3.4$$

㉛ 「プロフィール」の記入

この集計票のプロフィールは、評価観点個

表16 集計票（a I票）の記入の仕方の実践モデル（財的領域の場合、N＝20人）

		財 的 領 域							プ ロ フ ィ ー ル (平均)						
評価領域	P D S	評 価 要 素	観 点 番 号	評 定 分 布					評 定	領 域 平 均 点	プ ロ フ ィ ー ル (平均)				
				5	4	3	2	1			4	3.4	3		
① 子 算 配 分 と 執 行	P	予算編成の合理化・重点化	①	0	8	9	3	0	3.3	3.4	3.4				
		予算配分・執行計画についての理解	②	0	6	8	5	1	3.0						
	D	予算執行の適時性	③	1	10	8	1	0	3.6						
		予算執行の正確さ・迅速さ	④	0	9	10	1	0	3.4						
	S	予算執行状況	⑤	0	10	10	0	0	3.5						
		予算執行状況の報告	⑥	0	8	11	1	0	3.4						
② 会 計	P	各種会計の執行計画・手続	①	0	8	9	3	0	3.3	3.5	3.5				
		補助教材の採用基準・手続	②	0	4	10	6	0	2.9						
	D	現金、預・貯金の取り扱い	③	2	8	10	0	0	3.6						
		会計表簿の記録	④	7	10	3	0	0	4.2						
	S	各種会計の監査・指導	⑤	2	10	8	0	0	3.2						
		各種会計の報告	⑥	5	10	5	0	0	4.0						
財 的 領 域 に お け る 平 均				P の 段 階		D の 段 階		S の 段 階		領 域 の 平 均					
				3.1		3.7		3.5		3.4					